

現行計画と新基本計画（中間まとめ）の比較

現行計画（京のごみ戦略 21）	新基本計画（中間まとめ）
<p data-bbox="204 430 475 465">計画策定の趣旨</p> <p data-bbox="204 483 660 515">1 社会動向の変化と計画策定の意義</p> <p data-bbox="204 515 759 631">○国における新たな制度や枠組みが策定（循環型社会推進基本法、各種リサイクル法等） ○国の計画等で示されている数値目標と本市の前計画の数値目標との乖離</p> <p data-bbox="204 775 443 806">2 計画の位置付け</p> <p data-bbox="204 806 759 864">○廃棄物処理法の規定により市町村に策定が義務付けられている「一般廃棄物処理計画」</p> <p data-bbox="204 981 392 1012">3 計画の期間</p> <p data-bbox="204 1012 660 1043">○平成 15 年から平成 27 年までの 13 年間</p>	<p data-bbox="836 430 1107 465">新計画策定の背景</p> <p data-bbox="836 483 1292 515">1 社会動向の変化と計画策定の意義</p> <p data-bbox="836 515 1391 748">○目標を上回るスピードでごみ減量が進行 ⇒新たな戦略的目標の設定が必要 ○環境モデル都市に選定 ⇒全国に率先する独自の施策展開 ○国の第 2 次計画の策定、食り法、容り法改正 ⇒循環型社会構築に向けた新たな施策展開 ○資源枯渇、温暖化の加速 ⇒低炭素社会に向けた取組強化</p> <p data-bbox="836 775 1075 806">2 計画の位置付け</p> <p data-bbox="836 806 1391 954">○一般廃棄物処理計画 ○国の第 2 次計画を踏まえた循環型社会の形成に向けた計画 ○本市地球温暖化対策の廃棄物部門における実施計画</p> <p data-bbox="836 981 1024 1012">3 計画の期間</p> <p data-bbox="836 1012 1024 1043">○平成 21 年から</p>
<p data-bbox="204 1106 692 1137">一般廃棄物（ごみ）対策の現状と課題</p> <p data-bbox="204 1151 443 1182"><ごみ量・ごみ質></p> <p data-bbox="204 1182 692 1240">○業者収集ごみの微増傾向 ○紙・プラ・厨芥類など資源化可能物の排出</p> <p data-bbox="204 1240 363 1272"><上流対策></p> <p data-bbox="204 1272 692 1352">○環境意識の向上 ○市民・事業者・行政のパートナーシップの取組推進</p> <p data-bbox="204 1352 759 1411">○エコビジネスの推進、情報コミュニケーションの推進</p> <p data-bbox="204 1411 392 1442"><リサイクル></p> <p data-bbox="204 1442 715 1559">○分別収集・拠点回収の協力率の向上 ○収集運搬費用等の増大 ○市況に左右される不安定な民間リサイクル ○民間リサイクルの周知徹底 など</p>	<p data-bbox="836 1106 1267 1137">ごみの現状・取組指標の達成状況</p> <p data-bbox="836 1151 1075 1182"><ごみ量・ごみ質></p> <p data-bbox="836 1182 1318 1240">○事業系ごみの減量が不十分 ○紙・プラ・厨芥類など資源化可能物の排出</p> <p data-bbox="836 1240 1050 1272"><目標達成状況></p> <p data-bbox="836 1272 1174 1330">○ごみの総排出量、処理処分量 ⇒目標達成済み</p> <p data-bbox="836 1330 1203 1388">○再生利用率、最終処分量 ⇒着実に進歩しているが未達成</p> <p data-bbox="836 1388 1050 1420"><指標達成状況></p> <p data-bbox="836 1420 1391 1590">○環境に配慮した生活様式、事業活動への変革が不十分 ○ごみの減量化への取組は着実に進捗しているが、手付かず食品の排出削減、リターナブル容器の普及の取組が不十分 ○ごみの適正処理は目標を上回るペースで進捗</p>

計画の基本的な考え方

<ごみ処理から循環管理への変革>

ごみとして出てきたものを処理するという考え方ではなく「ごみとなるようなものの利用を抑制し、なお排出されるものについてはできるだけ再生利用、残るものについては適正に処理する。」

<基本目標>

明るい循環型都市・京都
「6つのE」

- ①環境(Ecology)
- ②経済(Economy)
- ③エネルギー(Energy)
- ④精神・気風(Ethos)
- ⑤教育(Education)
- ⑥参加・活動(Empowerment)

<到達点でのまちの姿>

- ①市民・事業者自らの主体的参加と選択のもとに形成された「満足度」の高いまち
- ②環境への負荷が軽減された「安心・安全度」の高いまち
- ③機能を重視したエコビジネスが元気な活力あるまち

目標達成に向けた具体的な施策

<上流対策に重点を置いた ごみ減量化の促進>

- 2R型エコタウン、○環境教育の充実
- 総合環境情報誌、○事業系ごみの制度見直しなど

<分別・リサイクルの拡大>

- コミュニティ回収、○その他プラ全市拡大
- 家庭ごみの収集・処理コスト負担のあり方検討
- 有害・危険物の管理システム検討 など

<環境負荷の少ない廃棄物管理システムの構築とまちの美化>

- 5工場から4工場体制へ
- 環境学習の場としての施設整備
- バイオマス利活用の推進
- 災害廃棄物への対応
- まちの美化推進

計画の目標

<ごみ量予測>

市の再資源化や処理処分量だけではなく、上流対策の効果を把握する

⇒ごみの総量を対象として予測

<数値目標>

- 資源生産性を新たな指標として導入
- ごみの発生から処理までの目標
⇒再生利用率、処理処分量、最終処分量

<市民・事業者・市の取組目標>

- 環境に配慮した生活様式や事業活動に関する目標
- ごみ減量化への取組に冠する目標
- 適正処理等に関する目標

新基本計画策定の基本的な考え方

<配慮すべき事項>

- 市民、事業者の強化に加え、都市特性を踏まえ、学生や観光客との連携も必要
- 行政には、市民、事業者等の取組を支えるコーディネーター役としての役割が必要

<目指すべきまちの姿>

みんなが主役の環境にやさしいまち

◆ひとりひとりの3Rから、みんなで行う3Rの推進

◆自ら積極的に選ぶ様々な取組

◆新たな資源・エネルギーの創生

<達成のための基本的考え方>

- ①地域での連携、協働によるリデュース、リユース（2R）の推進
- ②地域の特性を生かしたリサイクルの仕組みづくり
- ③環境負荷や経済性に配慮したエネルギー回収と適正処理システムの構築

目標達成に向けた具体的な施策

<2Rの推進>

<リサイクルの推進>

<適正な廃棄物処理システムの構築>

計画の目標

<指標の設定>

<目標の設定>

≪今回の審議テーマ≫

具体的な施策の検討

指標の考え方